

報道発表資料

平成 28 年 8 月 18 日
独立行政法人国民生活センター

2015 年度の PIO-NET にみる危害・危険情報の概要

この概要は、PIO-NET^(注1)により収集した 2015 年度の「危害・危険情報」^(注2)をまとめたものです。当該情報の詳細については、「消費生活年報 2016」（2016 年 10 月発行予定）に掲載する予定となっています。

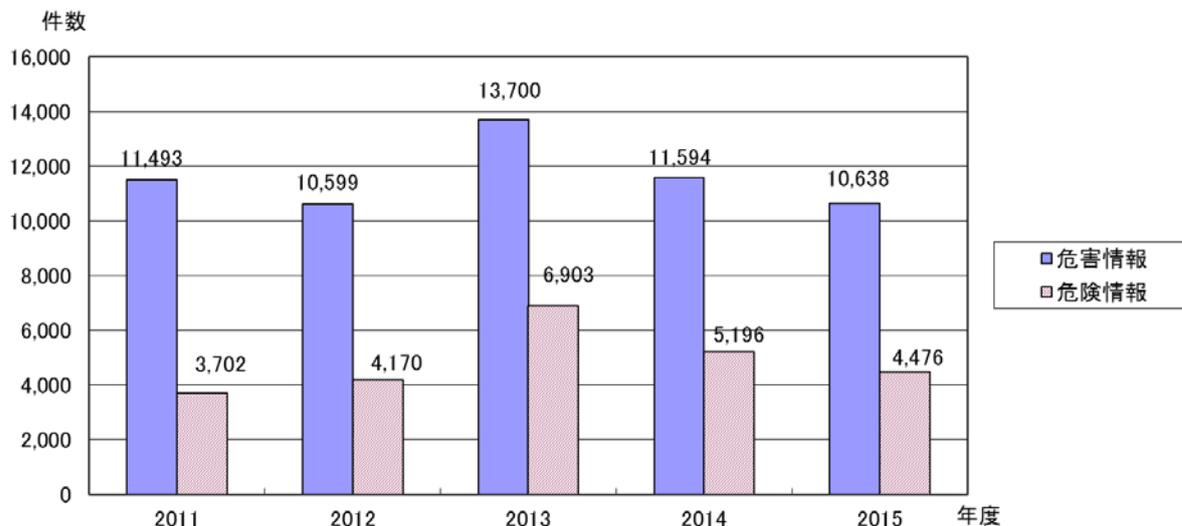
2015 年度の傾向と特徴

- ・「危害・危険情報」は 15,114 件で、対前年度比で見ると 10.0%減となっています。
- ・「危害情報」は 10,638 件で、上位 3 商品・役務は「化粧品」、「医療サービス」、「健康食品」でした。「危険情報」は 4,476 件で、上位 3 商品・役務は「四輪自動車」、「調理食品」、「菓子類」でした。
- ・「危害情報」の減少については、「健康食品」が 315 件増加したものの、顔のリフトアップなどの「美容医療」に関するもの 214 件の減少を含めて「医療サービス」が 301 件減少したことや、2011 年度から 1 位である「化粧品」が 191 件減少したことが大きく影響しています。「化粧品」の減少については薬用化粧品の白斑トラブルに関するものが引き続き減少したことが大きく影響しています。
- ・「危険情報」の減少については、1 位の「四輪自動車」が 95 件減少したことや、「自転車」が 56 件減少したこと、また、「電子レンジ類」が 40 件減少したことが影響しています。

(注1) PIO-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワークシステム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積しているデータベースのこと。

(注2) 「危害・危険情報」とは、商品・役務・設備に関連して、身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けたという情報（「危害情報」）と、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報（「危険情報」）をあわせたもの。データは、2016年5月末日までの登録分。なお、2007年度から国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いており、2015年度からは「経由相談」全体を除いている。

図. 「危害・危険情報」の収集件数の推移



※データは2016年5月末日までの登録分。2014年度までは国民生活センターで受け付けた「経由相談」を除いたもの。2015年度からは「経由相談」全体を除いている。

1. 「危害情報」の概要

2015年度にPIO-NETにより収集した「危害情報」は10,638件でした(2014年度:11,594件)。

(1) 商品等分類別件数

商品等分類別にみると、1位は「保健・福祉サービス」(「医療サービス」、「エステティックサービス」、「美容院」、「歯科治療」など) 2,804件(26.4%)、2位は「食料品」(「健康食品」、「調理食品」、「飲料」、「菓子類」など) 2,259件(21.2%)、3位は「保健衛生品」(「化粧品」、「医薬品類」、「家庭用電気治療器具」など) 1,791件(16.8%)、4位は「住居品」(「家具類」、「洗濯用洗剤」、「ふとん類」など) 932件(8.8%)、5位は「他のサービス」(「外食」など) 602件(5.7%)でした。(表1)

具体的に商品・役務別にみると、1位は「化粧品」1,036件(9.7%)で、前年度(1位、1,227件)と同じ順位でしたが、自主回収している薬用化粧品の白斑トラブルに関するものが減少したことなどにより、191件減少しました。2位は「医療サービス」904件(8.5%)で、顔のリフトアップなどの「美容医療」に関するものが214件減少したことなどにより301件減少しました。

3位は「健康食品」898件(8.4%)で、前年度(4位、583件)から315件増加し、順位も上がりました。4位は「エステティックサービス」521件(4.9%)、5位は「外食」501件(4.7%)でした。(表2)

表1. 「危害情報」の商品等分類別の上位5位の推移

順位	2015年度 10,638件			2014年度 11,594件			2013年度 13,700件		
	商品等分類	件数	割合(%)	商品等分類	件数	割合(%)	商品等分類	件数	割合(%)
1	保健・福祉サービス	2,804	26.4	保健・福祉サービス	3,262	23.8	保健衛生品	3,271	23.9
2	食料品	2,259	21.2	保健衛生品	2,136	15.6	食料品	3,138	22.9
3	保健衛生品	1,791	16.8	食料品	2,122	15.5	保健・福祉サービス	3,073	22.4
4	住居品	932	8.8	住居品	1,096	8.0	住居品	1,306	9.5
5	他のサービス	602	5.7	他のサービス	660	4.8	他のサービス	585	4.3

表2. 「危害情報」の上位5商品・役務の推移

順位	2015年度			2014年度			2013年度		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	化粧品	1,036	9.7	化粧品	1,227	10.6	化粧品	2,313	16.9
2	医療サービス	904	8.5	医療サービス	1,205	10.4	調理食品	1,407	10.3
3	健康食品	898	8.4	エステティックサービス	622	5.4	医療サービス	1,056	7.7
4	エステティックサービス	521	4.9	健康食品	583	5.0	エステティックサービス	661	4.8
5	外食	501	4.7	外食	544	4.7	健康食品	655	4.8

(2) 危害内容

1位は、「その他の傷病及び諸症状^(注3)」2,841件(26.7%)でした。「医療サービス」、「歯科治療」、「健康食品」などに関するものが多く、体調がすぐれない、気分が悪い、痛みがあるなどの症状が多くなっています。前年度(1位、3,567件)から726件減少しました。

2位は、「皮膚障害」2,590件(24.3%)で、「化粧品」、「健康食品」、「医療サービス」などに関するものが多くなっています。「化粧品」の152件の減少を含め、前年度(2位、2,782件)から192件減少しました。

3位は、「消化器障害」1,224件(11.5%)で、「健康食品」、「調理食品」、「外食」、「飲料」などに関するものが多くなっています。「健康食品」の135件の増加を含め、前年度(3位、1,161件)から63件増加しました。

4位は、「擦過傷・挫傷・打撲傷」の836件(7.9%)で、「エステティックサービス」、「商品一般」、「自転車」などに関するものが多くなっています。前年度(4位、825件)から11件増加しています。

5位は、「刺傷・切傷」746件(7.0%)で、「調理食品」、「外食」、「歯科治療」、「美容院」などに関するものが多くなっています。前年度(6位、725件)から21件増加し、順位も上がりました。

(注3)「その他の傷病及び諸症状」には、脱毛、切れ毛、頭痛、腰痛、発熱、精神不安定等が該当し、根本的な原因が明らかでないものが含まれる。

表3. 危害内容別上位5位の推移

順位	2015年度			2014年度			2013年度		
	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)
1	その他の傷病及び諸症状	2,841	26.7	その他の傷病及び諸症状	3,567	26.0	皮膚障害	4,030	29.4
2	皮膚障害	2,590	24.3	皮膚障害	2,782	20.3	その他の傷病及び諸症状	3,609	26.3
3	消化器障害	1,224	11.5	消化器障害	1,161	8.5	消化器障害	2,015	14.7
4	擦過傷・挫傷・打撲傷	836	7.9	擦過傷・挫傷・打撲傷	825	6.0	擦過傷・挫傷・打撲傷	858	6.3
5	刺傷・切傷	746	7.0	熱傷	731	5.3	熱傷	765	5.6

(3) 被害者の年代・性別

危害を受けた被害者の性別は、女性が7,464件(70.2%)、男性が2,899件(27.3%)で、「美容医療」や「化粧品」などの件数の減少により、前年度と比べ女性の割合が減少しました。

年代別では、前年度と同じく40歳代が1,789件(16.8%)で最も多く、次いで70歳以上が1,642件(15.4%)となっています。以下、50歳代1,579件(14.8%)、60歳代1,568件(14.7%)、30歳代1,375件(12.9%)、20歳代889件(8.5%)、10歳未満352件(3.3%)、10歳代324件(3.0%)と続いています。また、10歳代を除く全ての年代で件数は減少しました。(表4)

次に、年代別に危害の最も多い商品・役務をみると、10歳未満は「外食」35件、10歳代は「健康食品」45件、20歳代は「医療サービス」131件、30歳代は「エステティックサービス」130件、40歳代は「健康食品」165件、50歳代は「化粧品」188件、60歳代も「化粧品」220件、70歳以

上は「健康食品」207件となっています。

「健康食品」は、10歳代から60歳代で件数が増加、順位が上昇し、「外食」は10歳未満と30歳代から60歳代で件数が減少しました。また、「化粧品」は40歳以上の年代で件数が減少しています。(表5)

表4. 年代別・性別危害件数

年代	性別		男		女		不明・無回答		計	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
10歳未満	146	5.0	140	1.9	66	24.0	352	3.3		
10歳代	115	4.0	202	2.7	7	2.5	324	3.0		
20歳代	184	6.3	709	9.5	6	2.2	899	8.5		
30歳代	328	11.3	1,040	13.9	7	2.5	1,375	12.9		
40歳代	473	16.3	1,314	17.6	2	0.7	1,789	16.8		
50歳代	426	14.7	1,151	15.4	2	0.7	1,579	14.8		
60歳代	452	15.6	1,109	14.9	7	2.5	1,568	14.7		
70歳以上	472	16.3	1,162	15.6	8	2.9	1,642	15.4		
不明・無回答	303	10.5	637	8.5	170	61.8	1,110	10.4		
合計	2,899	27.3	7,464	70.2	275	2.6	10,638	100.0		

※割合は、小数点第2位を四捨五入しており、内訳の数値の合計は100.0%にはなりません。

表5. 年代別の上位5商品・役務

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
10歳未満		外食 35	家具類、菓子類	商品一般 19	飲料 14	13
10歳代		健康食品 45	自転車 31	飲料 24	化粧品 23	外食 20
20歳代		医療サービス 131	エステティックサービス 124	外食 74	化粧品 72	健康食品 71
30歳代		エステティックサービス 130	医療サービス 125	健康食品 117	化粧品 108	外食 86
40歳代		健康食品 165	化粧品 158	医療サービス 131	エステティックサービス 120	外食 86
50歳代		化粧品 188	健康食品 132	医療サービス 119	エステティックサービス 73	調理食品 60
60歳代		化粧品 220	健康食品 119	医療サービス 116	歯科治療 65	外食 49
70歳以上		健康食品 207	化粧品 186	医療サービス 158	歯科治療 60	医薬品類 51
不明・無回答		医療サービス 107	化粧品 77	外食 66	健康食品 42	調理食品 40

2. 「危険情報」の概要

2015年度に収集した「危険情報」は4,476件でした（2014年度：5,196件）。

（1）商品等分類別件数

商品等分類別でみると、1位は「住居品」（「家具類」「電子レンジ類」など）1,302件（29.1%）、2位は「食料品」（「調理食品」、「菓子類」など）950件（21.2%）、3位は「車両・乗り物」（「四輪自動車」、「自転車」など）871件（19.5%）、4位は「教養娯楽品」（「携帯電話」など）422件（9.4%）、5位は「保健衛生品」（「ヘアケア用具」など）が156件（3.5%）でした。（表6）

具体的に商品・役務別でみると、1位は「四輪自動車」592件（13.2%）、2位は「調理食品」307件（6.9%）でした。3位は「菓子類」167件（3.7%）、4位は「家具類」87件（1.9%）、5位は「外食」80件（1.8%）でした。（表7）

表6. 「危険情報」の商品等分類別の上位5位の推移

順位	2015年度			2014年度			2013年度		
	商品等分類	件数	割合(%)	商品等分類	件数	割合(%)	商品等分類	件数	割合(%)
1	住居品	1,302	29.1	住居品	1,641	23.8	食料品	2,924	42.4
2	食料品	950	21.2	車両・乗り物	1,024	14.8	住居品	1,551	22.5
3	車両・乗り物	871	19.5	食料品	889	12.9	車両・乗り物	875	12.7
4	教養娯楽品	422	9.4	教養娯楽品	513	7.4	教養娯楽品	481	7.0
5	保健衛生品	156	3.5	土地・建物・設備	208	3.0	保健衛生品	213	3.1
							土地・建物・設備	213	3.1

表7. 「危険情報」の上位5商品・役務の推移

順位	2015年度			2014年度			2013年度		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	四輪自動車	592	13.2	四輪自動車	687	13.2	調理食品	2,419	35.0
2	調理食品	307	6.9	調理食品	275	5.3	四輪自動車	563	8.2
3	菓子類	167	3.7	菓子類	152	2.9	菓子類	155	2.2
4	家具類	87	1.9	自転車	134	2.6	携帯電話	130	1.9
5	外食	80	1.8	電子レンジ類	119	2.3	自転車	111	1.6

（2）危険内容

1位は、「異物の混入」924件（20.6%）で、「調理食品」、「菓子類」などに関するものが多いです。「調理食品」が57件、菓子類が29件増加したこともあり、前年度（1位、841件）から83件増加しました。

2位は、「その他」522件（11.7%）で、「四輪自動車」、「自動車用ベビーチェア」、「医療サービス」などに関するものが多い。前年度（6位、511件）から11件増加し、順位も上がりました。

3位は「機能故障」498件（11.1%）で、「四輪自動車」、「自動二輪車」などに関するものが多いです。前年度（2位、667件）から169件減少し、順位も下がりました。

4位は、「発煙・火花」477件（10.7%）で、「四輪自動車」、「電子レンジ類」、「電気掃除機類」などに関するものが多いです。「電子レンジ類」の20件の減少、「他の住居用電気器具」の9件の減少などを含め、前年度（4位、569件）より92件減少しました。

5位は、「過熱・こげる」447件（10.0%）で、「携帯電話」、「電話関連機器・用品」などに関するものが多いです。前年度（3位、589件）から142件減少し、順位も下がりました。（表8）

表 8. 危険内容別上位 5 位の推移

順位	2015年度			2014年度			2013年度		
	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)
1	異物の混入	924	20.6	異物の混入	841	12.2	異物の混入	2,845	41.2
2	その他	522	11.7	機能故障	667	9.7	過熱・こげる	581	8.4
3	機能故障	498	11.1	過熱・こげる	589	8.5	発煙・火花	580	8.4
4	発煙・火花	477	10.7	発煙・火花	569	8.2	機能故障	573	8.3
5	過熱・こげる	447	10.0	破損・折損	538	7.8	破損・折損	482	7.0

○情報提供先

消費者庁 消費者教育・地方協力課（法人番号 5000012010024）

消費者庁 消費者安全課（法人番号 5000012010024）

内閣府 消費者委員会事務局（法人番号 2000012010019）

（本件問い合わせ先）

商品テスト部：042-758-3165

別 添

<参考資料 上位3商品・役務の概要>

1. 「危害情報」

①化粧品 (1,036件)

「化粧品」は1,036件で、全体に占める割合は9.7%となっており、前年度(1位、1,227件)から191件減少しました。

性別では、女性が946件(91.3%)と9割以上を占めています。年代別では、60歳代が220件(21.2%)で最も多く、次いで50歳代の188件(18.1%)、70歳以上186件(18.0%)の順となっています。

「化粧品」の内訳をみると、「基礎化粧品(全般)」127件(12.3%)と「化粧クリーム」127件(12.3%)、「化粧水」89件(8.6%)、「乳液」86件(8.3%)で41.4%を占めています。危害内容は、「皮膚障害」が908件(87.6%)と全体の9割弱を占め、次いで「その他の傷病及び諸症状」98件(9.5%)、「呼吸器障害」8件(0.8%)の順となっています。

<事例>

- ・長年利用していて問題がなかった化粧品なのに、今月に入って、急に肌が荒れてきた。皮膚科に行くと、今まで使っていた化粧品は使わない方がよいと言われた。(60歳代・女性)
- ・初めて購入した化粧水、乳液、クリームを使い始めてしばらくすると肌がかさかさし、ぶつぶつができた。化粧品が原因とは思わなかったので使い続けたところ、顔の形がわからなくなるほど腫れ、夜中には呼吸ができなくなってきた。(40歳代・女性)

②医療サービス (904件)

「医療サービス」は904件で、全体に占める割合は8.5%となっており、前年度(2位、1,205件)から301件減少しました。

性別では、女性が662件(73.2%)、男性が231件(25.6%)となっています。年代別では、70歳以上が158件(17.5%)で最も多く、次いで20歳代および40歳代が131件(14.5%)、30歳代125件(13.8%)の順となっています。

「医療サービス」の内容をみると、「美容医療」が412件(45.6%)を占めています。危害内容は、「その他の傷病及び諸症状」406件(44.9%)が最も多く、次いで「皮膚障害」200件(22.1%)、「不明」57件(6.3%)、「熱傷」56件(6.2%)の順となっています。

<事例>

- ・美容外科で目の下のしわに液を注入、気になっていた部分のしわは目立たなくなったが、別の注入した部分が、筋状にふくらんだ。病院は注入不良を認めたが今後が心配。(40歳代・女性)
- ・美容外科で糸による顔のリフトアップの施術を受けたが、顔がデコボコになり6カ月経っても痛みが引かない。(30歳代・女性)

③健康食品 (898件)

「健康食品」は898件で、全体に占める割合は8.4%となっており、前年度(4位、583件)から315件増加し、順位も上がりました。

性別では、女性が758件(84.4%)と大半を占めており、年代別では、70歳以上が207件(23.1%)

で最も多く、次いで、40歳代 165件（18.4%）、50歳代 132件（14.7%）の順となっています。

「健康食品」の内訳をみると、「他の健康食品」が 479件（53.3%）で最も多く、次いで「酵素食品」が昨年度（22件）から 168件増加し、190件（21.2%）となっています。

危害内容は、「消化器障害」が 361件（40.2%）と約 4割を占め、次いで、「皮膚障害」292件（32.5%）、「その他の傷病及び諸症状」217件（24.2%）の順となっています。

<事例>

- ・生酵素の健康食品をお試しで購入したが体に合わなかったのか下痢をしてしまった。内科に行くと飲むのをやめるよう言われた。（30歳代・男性）
- ・バストアップとダイエットのお試しを飲んだら生理が止まりバストが痛く眠くなるのでこれ以上飲みたくない。（10歳代・女性）

2. 「危険情報」

①四輪自動車（592件）

「四輪自動車」は 592件で、全体に占める割合は、13.2%となっており、前年度（1位、687件）から 95件減少しました。

「四輪自動車」の内訳をみると、「普通・小型自動車」413件（69.8%）が最も多く、次いで「軽自動車」137件（23.1%）となっています。危険内容は、「機能故障」335件（56.6%）が最も多く、次いで「その他」63件（10.6%）、「発煙・火花」38件（6.4%）の順となっています。

<事例>

- ・ブレーキペダルを踏んだらバックした。CVT（無段変速機）の故障だといわれた。
- ・2年前に購入した衝突被害軽減ブレーキシステム付きの軽自動車です衝突事故を起こした。システムに不具合があったのではないかと。

②調理食品（307件）

「調理食品」は 307件で、全体に占める割合は 6.9%となっており、前年度（2位、275件）から 32件増加しました。

「調理食品」の内訳をみると、総菜、餃子などの「他の調理食品」91件（29.6%）が最も多く、次いで「弁当」73件（23.8%）、「冷凍調理食品」59件（19.2%）、「フライ類」29件（9.4%）、「調理パン」26件（8.5%）と続いています。危険内容は、「異物の混入」の 285件（92.8%）がほとんどを占めています。

<事例>

- ・スーパーで購入した冷凍餃子^{ぎょうぎ}を調理したところ、父が食べた餃子1個に3センチの針金状の金属が入っていた。
- ・息子が食べたハンバーガーの中に結束バンドが入っていた。

③菓子類（167件）

「菓子類」は 167件で、全体に占める割合は、3.7%となっており、前年度（3位、152件）か

ら 15 件増加しました。

「菓子類」の内訳をみると、「他の菓子類」59 件（35.3%）が最も多く、次いで「他の和生菓子類」が 23 件（13.8%）、「他の洋生菓子」21 件（12.6%）、「あめ」が 20 件（12.0%）と続いています。危険内容では、「異物の混入」142 件（85.0%）が最も多くみられました。

<事例>

- ・購入したヨモギ大福の中に、マッチ棒の先ほどの小石が混入していた。
- ・神社の屋台で食べた一口カステラの中にねじが入っていた。